

創刊号



# REIC ニュース

No.1  
2016 Apr

特定非営利活動法人  
リアルタイム地震・防災情報利用協議会



はじめまして、REICニュースです！

皆様にもっと身近にREICを感じていただきたく、今年度から会報誌を発行することとなりました。

創刊号では、REICをもっと深く知ってもらうために、REICの歴史を振り返りました。

今後はもっと誌面を充実させていきたいと思ひます。どうぞお気軽にご意見・情報等をお寄せください。

## 創刊によせて

桜の開花とともに、新しい年度を迎え、REIC会員の皆様におかれましても、それぞれ新たな気持ちで業務に励んでおられることと思ひます。

REICは平成15年創立以来、会員の皆様のご支援のもと、「地震災害などの防災に係るリアルタイム情報を共有、活用して、防災・減災に寄与する」という基本理念に基づいて、活動を展開してまいりました。当初は、気象庁、防災科学技術研究所と協力して、緊急地震速報の利活用技術の開発、実用化、普及に取り組み、その後緊急地震速報の配信を通じて、地震防災に寄与してまいりました。

5年前の東日本大震災において、2万人に及ぶ尊い命が奪われ、正しい情報の提供、共有、活用がいかに大切かを改めて学びました。以来、REICは従来から手掛けてまいりました緊急地震速報に加え、津波情報や気象情報など、より広い分野の防災情報の提供、共有を通じて、防災・減災に寄与すべく、方針を転換し、活動を展開しております。そのために、できるだけ多くの方々とのコミュニケーションを可能にするネットワークを構築することが大切と考えております。

この度、その一環として、REIC会報誌を創刊することになりました。この会報誌を通じてREICの活動をご理解いただくとともに、会員同士のアイデアや情報の交換を活発にし、それらを通じて会員の範囲が広がり、ひいては防災・減災に寄与できるよう期待しております。是非趣旨にご賛同いただき、積極的なご参加を賜りますようお願い申し上げます。



リアルタイム地震・防災情報利用協議会 会長 早山 徹

## コンテンツ

- ◆ 創刊によせて リアルタイム地震・防災情報利用協議会 会長 早山 徹
- ◆ コンテンツ
- ◆ REIC活動報告：第20回 震災対策技術展
- ◆ 事務局より
- ◆ REIC活動報告：全国被災地 語り部シンポジウム in 東北
- ◆ 地震データ：2016年1月～3月
- ◆ REICのあゆみ



## REIC活動報告：第20回 震災対策技術展

第20回「震災対策技術展」が2月4日～5日の2日間、パシフィコ横浜で開催されました。

東日本大震災から5年目を迎えた今年は、2日間の来場者数が16,067名(昨年15,039名)となり、過去最高を記録しました。

REICでは、今年も展示会場にブースを出すとともに、2月4日パシフィコ横浜アネックスホールにて、国立研究開発法人防災科学技術研究所(以下、防災科研)との共催で「第15回・国土セイフティネットシンポジウム」を、に企画・開催しました。プログラムは、下記のとおりです。

### ◆第15回 国土セイフティネットシンポジウム 災害情報の最前線！～今！災害への備えは、未来の安全対策です～◆

1. 開会の挨拶：米倉 実 防災科学技術研究所 理事
2. 来賓の挨拶：松室 寛治 文部科学省研究開発局 地震・防災研究課 防災科学技術推進室長
3. 基調講演：「災害情報の共有・利活用の最前線」～災害種別、防災フェーズ、機関・組織の枠を超えて～  
白田 裕一郎 防災科学技術研究所 レジリエント防災・減災研究推進センター プロジェクトディレクター
4. 「最近の火山活動」～火山被害への備えに、必要な情報とは～  
棚田 俊收 防災科学技術研究所 観測・予測研究領域 地震・火山研究副ユニット長
5. 「首都直下地震への備え」～災害に備え、今すべきこととは～  
久田 嘉章 工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授
6. 「災害被災地対応の最前線」～鬼怒川氾濫、茨城県常総市の広域水害対応～  
水井 良暢 防災科学技術研究所 社会防災システム研究領域 災害リスク研究ユニット 研究員
7. 「災害医療の最前線」～災害医療の現場で起きていること～  
金谷 泰宏 国立保健医療科学院健康危機管理研究部 部長、東京工業大学連携教授



シンポジウム会場

本シンポジウムの来場者は、当日来場者も含め約180名(関係者除く)と、非常に多くの方にご参加頂き、有意義なシンポジウムを開催することができました。これも皆様方のご支援とご愛顧によるものと、心から感謝いたしております。

展示ブースでは「情報が命を救う」をコンセプトに、緊急津波避難情報システムの社会実験における報道並びにシステムの紹介ビデオ、緊急地震速報における警報と予報のパネル展示およびデモンストレーションと、アンケートによる来場者の情報収集やリアルタイム防災情報の開発・提供・発信に注力するREICの活動を紹介しました。



展示会場出展の様子

## 事務局より

### ● 今後の予定

- ・ 6月16日(木) 第14期 定時総会  
会場：日本財団ビル(東京都港区赤坂1-2-2)
- ・ 6月16日(木) REIC防災セミナー、ビジネス交流会(総会と同会場にて)



(昨年度 総会・防災セミナー)

### ● 書籍「耐津波学 津波に強い社会を創る」のご案内



本書は、REIC賛助会員である東北大学 今村教授、東京大学 堀教授により編集され、「第8章 津波避難の円滑化に関する技術の現状と課題」では、当会理事長 大保直人が執筆しております。

「耐震津波 津波に強い社会を創る」(森北出版)

(監修)濱田政則 (編集)今村文彦、岸井隆幸、磯部雅彦、堀宗朗

# REIC活動報告：全国被災地 語り部シンポジウム in東北

「全国被災地 語り部シンポジウム in 東北」が3月21日～22日の2日間、南三陸ホテル観洋で開催されました。

このシンポジウムは、東日本大震災から5年が経過し、今後さらに震災の風化防止と後世への継承など、様々な取り組みに関する意見交換、復興と防災を基本としながら、復興まちづくりに不可欠な地域活性化にどう取り組むか、6年目の新しい復興スケジュールに向けて、全国の被災地語り部の皆さまのご協力を得ながら、先例に学び、今後の仕組みづくりや東北から全国への情報発信の足掛かりとすることを目的に「全国被災地語り部シンポジウム in 東北」実行委員会が主催、南三陸ホテル観洋の共催で開催されたものです。

REICは、3月22日「第4部：津波避難システム社会実験」を担当しました。ここでは、(一社)東北地域づくり協会の技術開発支援テーマで開発した「緊急津波避難情報システム」を紹介し、講演の最後には南三陸ホテル観洋の従業員を対象とした避難訓練を実施しました。

訓練は、宮城県沖でM8の地震が発生し、高さ2mの津波が来ることを想定しました。参加した従業員は、宿泊者を避難場所に誘導し、避難が確認できたら完了の操作をします。



講演会場の様子



「緊急津波避難情報システム」  
避難完了状況結果

右図は、今回の訓練情報と参加者の避難完了状況結果を示したものです。

南三陸ホテル観洋は、東日本大震災でも避難場所として宿泊者以外の人達を受け入れた経験がありました。今回の訓練では、参加者全員の避難完了が確認でき、日頃の訓練の重要性が反映された結果となりました。

## ●南三陸ホテル観洋

〒986-0766 宮城県本吉郡南三陸町黒崎 99-17  
http://www.mkanyo.jp/ TEL：0226-46-2442 (代)

南三陸ホテル観洋では、震災を風化させないために、スタッフが町をバスで案内する『語り部バス』を運行し、実体験・教訓を伝えています。

(ホテル発→戸倉地区→高野会館前→防災庁舎→ホテル着 約60分)



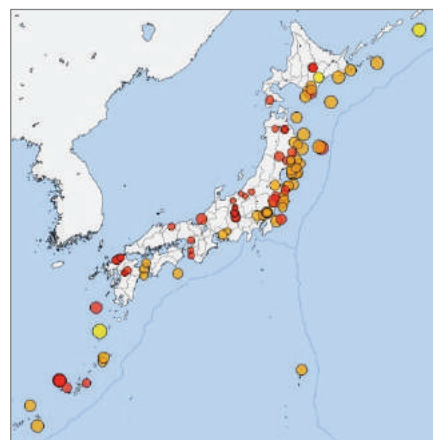
「語り部バス」

## 地震データ：2016年1月～3月

地震データ：2016年1月～3月 震度4以上

発生日	発生時間	震央地名	緯度	経度	深さ	M	最大震度
3月22日	14:34	茨城県北部	36° 46.7' N	140° 34.4' E	7km	M4.7	4
3月3日	16:11	宮崎県南部平野部	31° 46.2' N	131° 25.8' E	51km	M4.9	4
2月7日	19:26	茨城県南部	36° 03.1' N	139° 54.2' E	43km	M4.6	4
2月7日	10:09	茨城県北部	36° 44.4' N	140° 34.9' E	10km	M4.4	4
2月5日	7:41	神奈川県東部	35° 37.8' N	139° 32.4' E	26km	M4.6	4
2月2日	14:31	岩手県沖	39° 40.8' N	142° 54.4' E	22km	M5.6	4
1月25日	2:13	福島県沖	37° 07.7' N	141° 08.4' E	29km	M4.2	4
1月14日	12:25	浦河沖	41° 58.2' N	142° 48.0' E	52km	M6.7	5弱
1月11日	15:26	青森県三八上北地方	40° 23.2' N	141° 15.8' E	10km	M4.6	5弱
1月9日	23:12	奄美大島近海	28° 02.7' N	129° 29.5' E	28km	M5.4	4

地震データ：2016年1月～3月 震度1以上



● 深さ 0～30km  
● 深さ 30km～100km  
● 深さ 100km～300km

気象庁「震度データベース」による、2016年1月～3月末までの地震データを掲載します。

上記リストは、震度4以上の地震を発生日順で列記しています。

右上地図は、震度1以上の地震の発生場所を記しています。

なお、この間に発令された緊急地震速報は、警報：1回(1/14 浦賀沖)、予報：212回となります。

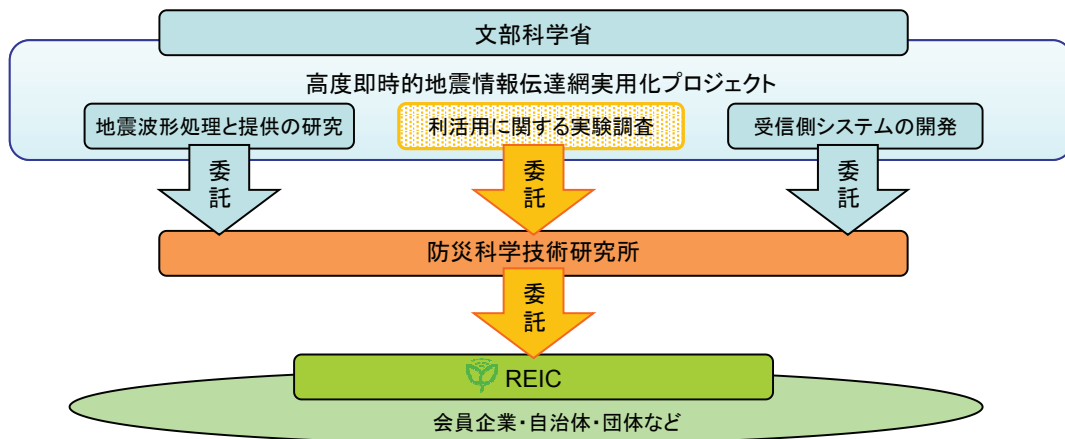
REICは、今年3月5日で設立から丸13年となりました。設立当時、文部科学省のリーディングプロジェクトにREICが参画していたことをご存じない方もいらっしゃると思います。そこで、REICニュース創刊に際して、REICのこれまでのあゆみを振り返ります。

年月	沿革
平成15年(2003)3月	NPO法人リアルタイム地震情報利用協議会 設立。
同年4月	文部科学省事業「高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト」が始まり、REICが参画する。
平成16年(2004)2月	緊急地震速報 試験配信をスタート。(「緊急地震速報」の名称統一)
平成18年(2006)8月	緊急地震速報(高度利用者向/予報) 先行運用スタート。
平成19年(2007)10月	緊急地震速報(一般向/警報) 配信スタート。
平成20年(2008)3月	「高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト」終了。
平成20年度(2008)	強震観測(K-NET)データのリアルタイム利活用に関する調査・研究。
平成21年度(2009)	強震観測(K-NET)データのリアルタイム利活用及び超深層観測データの活用ニーズに関する調査。
平成23年(2011)3月	新宿区信濃町に事務所移転。
平成24年度(2012)	地震・防災情報実利用を目的としたコミュニティエフエム局におけるフィールド実験。
平成25年(2013)6月	法人名を「リアルタイム地震・防災情報利用協議会」に改称。
平成26年度(2014)	「緊急津波避難情報システム」の開発・社会実験を実施。
平成27年(2015)2月	台東区鳥越に事務所移転。

## ■高度即時的地震情報伝達網実用化プロジェクト(平成15年4月～平成20年3月)■

本プロジェクトでは、当時 研究途上の「リアルタイム地震情報(防災科研)」の成果を活用し、「ナウキャスト地震情報(気象庁)」の高度化を図ることで、現在における『緊急地震速報』の実用化を目指したプロジェクトです。

本件の“利活用に関する実験・調査”について、REICが中心となり、会員企業・自治体・団体等の連携のもとに研究開発がすすめられました。



## REICニュース No.1

編集・発行 特定非営利活動法人 リアルタイム地震・防災情報利用協議会

〒111-0054 東京都台東区鳥越2-7-4 エス・アイビル4F

TEL: 03-5829-6368 FAX: 03-3865-1844

URL: <http://www.real-time.jp/> E-Mail: [reic\\_jimukyoku0305@eq7realtime.org](mailto:reic_jimukyoku0305@eq7realtime.org)

発行日 2016年4月

※本文記事・写真等は許可無く複製、配布することを禁じます。